

「西部圏域部会」の開催結果概要について

資料3

1 開催内容

日 時 令和4年9月2日(金)午後3時40分から午後4時15分まで
場 所 徳島県西部総合県民局 美馬庁舎2階 大会議室
出席者 西部圏域部会委員14名中WEBを含め10名
議 題 新たな総合計画の策定方針について

2 意見概要

番号	分野	意見の内容
1	・地域への愛着 ・人材育成	そこに住む人たちが、この地域に住んで良かったと感じ、地域のエンゲージメントや愛着心を持っている徳島になってほしい。 そのためには、人材育成や教育が必要。時代が人を作り、人が時代を切り拓くといが、そういった本当の人材を作っていく人材育成プランや教育プランを盛り込んでいただきたい。
2	・人材育成	コロナをきっかけに近い将来の予想がつかないような社会の変化が起こっている中で、やはり人材育成が必要と考える。変化に対応できる学びや自分自身で自分たちがどのように生活していったりとか、問題解決をしているのかという意思決定の力をつけていくことが非常に大切。 現行ビジョンにも含まれている、幼児からの様々な経験を通した学びがとても必要と感じている。その後、小学校、中学校、高校と段階を経て、学びながら自分たちでこの地域を担っていくというような学びをできる環境を作っていければ。 学校で学ぶことだけではなく、プラスアルファの学びの場の提供が大切。地域で子どもを育てていくということ、どのような社会状況になっても対応ができる人材を多く育てていくことが非常に重要だと思う。
3	・人材育成	自分に置き換え考えると、町の子どもと関わっていききたいと思った。今の子どもたちは結構地域に根付いた人になっており、町を盛り立ててくれる人になっているだろうと思う。 だからこそ、十代も含め今の子どもたちに、この地域でのいろいろな体験や経験をたくさんさせたい、してほしいと思う。
4	・人材育成 ・交通 ・デジタル社会	近い将来、地元の中学校に行かなくても海外の中学校に入るという面接もこれから始まってくる。徳島県でも、バカロレアを取った学校を早急に普及してもらいたい。また、今まで教育だけでなく、ICTやIoTに対応した教員をもっと増やしてもらいたい。 40年後の自分はおそらく運転をしていないので、無料で乗りやすい乗り物や老人でも行きたいと思う時に行けるような乗り物が出てくると思うので、それをいち早く取り込む。 また、畑でロボットと一緒に汗を流したりなど、心を通わせるような世界になっていたらいいと思う。
5	・ダイバーシティ ・デジタル社会 ・少子高齢化	2060年頃は、障がい、年齢、性別にとらわれない社会になっているのでは。また、健康寿命が延び、百歳でも現役の時代となり、技術の進歩により身体機能や知覚の応力の衰えを個性と考えられることが可能となっているのでは。下半身に障がいがあっても、立ち上がって歩けるようになり、脳波や音声によってコントロールできるロボットが開発され、自分のライフスタイルを確立し、個性を楽しむ時代になり、誰もが生きやすい世界になっている姿を想像。 新型コロナにより、つらい思いをした一方、デジタル技術の恩恵により、働き方やライフスタイルを考え直し、新しい可能性を見出した人たちも多いと思う。 人口減少や少子高齢化、労働力不足といった課題を抱えているが、健康寿命が延びることで定年延長や百歳現役時代が実現されれば、あらゆる世代の人たちが活躍することができる。IoTなどによる生産性の向上や労働力が増えることで、社会保障が充実し、安心して子育てできる環境を整え、少子化の進行を緩やかにすることも可能。長期ビジョンに書かれてあるダイバーシティとくしまで自分のライフスタイルを確立し、個性を楽しんでいる自分の未来を想像してわくわくする、そんな気持ちが大事だと思った。

番号	分野	意見の内容
6	・障がい者支援	障がいのある子どもへの支援は充実してきているが、その子どもが大人になったときに自立できるようなところまで考えていかないといけない。 地元で獲れる野菜の販売にブランドの付加価値を付けるなど、自立につながる取組ができれば。また、そういうことを教えてくれる人材も必要になってくる。 切れ目のない支援が必要になってくると思うので、子どもだけにフォーカスではなく、子どもが大きくなったときの就労の面など受け皿をしっかりとつづてほしい。
7	・男女共同参画 ・防災教育	男女共同参画社会について理解は深まりつつあるが、性別の役割分担による差別意識はまだ解消されていないように思う。性別や年齢、国籍、障がいの有無に関わらず、一人ひとりが個性と能力を発揮できるよう、今後も取組を強化していただきたい。 また、男女共同参画に基づき、自治会役員、自主防災組織、防災士会においても、女性の参画を拡大し、女性の視点からのニーズや課題などを取り入れた政策を打ち出し、地域の活性化や防災力の向上に努めていただきたい。 防災教育について、子どもに対してはもちろん、保護者の方も一緒に防災教育を受ける機会を設けることで、若い世代、働き盛りの世代の防災意識が向上するのでは。そこに自主防災組織や防災士会が関わることで、より一層自助・共助の強化につながって命を守る地域づくり、地域の絆が結ばれるようになると思う。 これらが2060年頃に徳島県全体で当たり前のように実現されていれば。
8	・林業 ・少子高齢化	林業に携わっているが、高齢化により今現役の方がリタイヤして、若い人が入ってこなければ産業として継続できない。林業アカデミーの取組の継続や拡大により、若い人たちに林業に入ってきてほしい。新たなデジタル技術の導入によって、女性がますます林業でも働けるようにお願いしたい。
9	・交通	地方では都会に比べ特に、交通インフラが貧しくなっているというところで、電動キックボードやスケートボードなど規制が変わってくるので、徳島県として、その先駆けをできたらいいと感じた。みんなが電動キックボードで移動している町だったら面白いかなと感じた。
10	・観光 ・少子高齢化 ・交通	県西部はどこも過疎地なので、住民がいない、子どもがいない、学校はない、病院はないというのに拍車がかかっていくのでは。観光としては、どうやって外から人に入ってもらおうかということを考えたときに、乗り物、二次交通インフラが全然ない。 県北では広大な地域でもあるので、ヘリコプターを利用した移動ができないか。学校が閉鎖されていっているので運動場をヘリポートとして遊覧をしたり、危機管理にも活用できると思う。 人が少なくなっても外からたくさんの方が来てくれたらいいと思う。